

令和6年香美市議会定例会1月開会会議 市長挨拶

本日、議員の皆さまのご出席をいただき、令和6年第1回香美市議会定例会1月開会会議が開かれますことに、厚く御礼申し上げます。

まずもって本年1月1日に発生しました能登半島地震におきまして、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、現在も避難生活をされている方々に対しまして、心よりのお見舞い申し上げます。

今回の地震は、お正月という誰もが全く想定していなかった日に起こりました。災害というものは、人々の都合に関係なく、24時間365日、いつ起きてもおかしくないのだと、改めて心に刻んだところです。

そして今回の地震を香美市に置き換えた時、多くの課題が見えてまいりました。議会の皆様とも議論を深め、一つ一つ改善していきたいと思えます。

7日の香美市消防出初式にて、消防団の皆さんと香美市消防署員を前に、以下お話をさせていただきました。

今回のような地震が起これば、市民の生命と財産を守るために、我々が最前線で活動しなければならないこと。そして、そのための備えを怠らず、訓練を行わなければならない、という内容です。

特に、地震発生時に、ケガをしないことについて述べさせていただきました。市民を助ける側の人員が、助けられる側になってはいけないからです。

このことは、市職員にも言えることで、地震災害時にケガをしないよう、家具の固定や自宅の耐震化について、1年かけて徹底したいと思えます。

消防署も含めた市職員と消防団員が、いざという時に住民を助ける側となれるよう、今後もしっかりと取り組んでまいります。

尚、能登半島地震に関する香美市としての支援について、国や県からの要請は、現在のところありません。震度5強を記録した福井県あわら市の森市長ともお話ししましたが、同様です。

今後の復旧復興のフェーズにおいて、市として、どういった支援ができるのか、考えていきたいと思えます。

次に、当初予算編成についてであります。

新年度予算につきましては、来週から市長査定が始まります。物価高や燃料価格の高騰により、昨年と同じ内容の事業であっても、予算が膨らむという状況となっています。こういった背景からも、厳しい予算査定となります。

しかし朝ドラ「あんぱん」の準備を含め、将来の香美市にとって必要な予算については、しっかりと計上させて頂きます。

特に、県は、高知県中山間地域再興ビジョンを看板に、中山間対策に力を入れることと思いますので、香美市においても積極的に取り組んでまいります。

団塊の世代が、75歳以上の後期高齢者になる「2025年問題」を来年に控え、私としましては、今やらねば機を逸してしまう、という決意であります。

また来年度予算では、土地購入に向けた予算計上を多く考えています。市が率先して、土地の有効活用を図り、市民生活の利便性向上、地域経済の発展につなげていきたいという考えからです。

議会からのご意見も踏まえ、取り組んでまいります。

次に、朝ドラ「あんぱん」に向けた体制整備についてです。

今月15日、企画財政課の中に、新たに「やなせたかし先生顕彰事業推進室」通称あんぱん室を設け、朝ドラへの対応を行うこととします。

今後は、あんぱん室が司令塔となり、市役所内の総合調整を行い、対外的な窓口も担っていきます。

また朝ドラ「あんぱん」終了後も見据え、アンパンマンミュージアムが長期的に人を呼べるよう、やなせ先生について紹介する展示館建設も含め、周辺整備にも取り組んでまいります。

最後に、来月2月17日に行われる「探究のまち香美市 よってたかって生涯学習フォーラム」についてです。

この事業の目的は、「探究のまち香美市」の目指す教育を、市民に周知し、主体的な学びや探究的な活動を推進するとともに、子どもも大人も、皆なで学び合い高め合いながら、市民間のつながりを育む、ということで、今年度は新たに「探究のまちK a m i プロジェクトアワード」を企画しました。

このアワードには、小中高校生、大学生、そして一般の方々から19件の応募があり、その中から選ばれた7件について、プレゼンが行われ、最終選考が行われます。

この市民による探究について発表する場を通じ、市民の探究活動をより活性化させ、香美市を生涯楽しく学び続けられる学園都市としてPRしてまいります。

多くの議員の皆様にも、ご参加頂ければと思っております。